

ITSUMIKAI

目次

ごあいさつ	2
OBだより	5
OBだより(近畿支部)	11
在学生だより	16
特集・日本建築学会中国大会開催	18
第16回コンペ入選発表	20
第16回コンペ審査講評	23
建築学科ゼミ紹介	24
平成2年度卒業生定著一覧表	26
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿	28
母校キャンパス案内	29
第23回(平成3年)総会のお知らせ	31
五三会活動報告	32
五三会収支決算報告	33
五三会会則	34
五三会第18号(平成2年度版)スポンサー一覧	36
編集後記	38

ごあいさつ



顧問あいさつ



五三会顧問 中尾好昭

今年で3回目のごあいさつとなりますが、その間非常に多くの変化があり、時代の流れについて行くのがやっとという状況でした。

特に今年は建築学科としても、建築学会全国大会を広島工大で開催するなど大きい行事を経験しなければならない年でした。また私個人としても中国から北京建築工程学院副教授の王立忠先生を客員研究員として受入れ1年間の共同研究の後、最近帰国されたばかりです。今後も恐らく当学科に同様の役割を期待されるケースが増えてくるものと思われま

す。一方就職状況について見ますと、着実にこれまでの傾向の延長線上にあり、例えば今年は大手5社全部に就職が内定しており、その他どの会社へも就職のチャンスが与えられる状況となりました。また、大学院は4名と昨年の5名より減少しましたが、これまで合格実績のなかった熊本大学の他、広島大学、大分大学に合格できたことは今後あとに続く人のためのはげみになるものと思われま

す。また、今年始めて当大学の大学院(土木ですか)に進学する人が出たことは向学心の表れと喜んでおります。その他九大、京都工芸繊維大学を狙った研究生希望者も出るなど、進学希望者の増加傾向は今年もはっきり出ていると思

います。卒業生の皆さんの御活躍に対し、学科における学生諸君および我々教職員も一体となって五三会の発展をこいねがうものであります。

段階ですが、学生諸君の設計製図に対する意欲が確かに高まったように感じております。今後何とかして「遅くまで明々と灯りがつき建築が好きで好きでたまらない連中がコンペを目指して頑張っている」状況の実現を目指す努力を続けたいと思います。



会長あいさつ

五三会の皆さんへ

五三会会長 三上明夫

会員の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。

今年の建築学科の同窓生は、第23期生の卒業生を迎えあと2年で1/4世紀の少しは、歴史のある同窓会に成ろうとしています。

今年は会員数でも、約4500人となり、建築界において官庁を始め会社・各団体には会員の皆様が、活躍していないというところが無いと言っていくくらいに成っているのではないのでしょうか。

これだけ多くの人材を得ているということは、同窓会にとってすばらしい財産であるはずです。

この財産を有効に利用することにより、会員の方々の社会での評価につながり、また母校建築学科が社会に要請される学府として確立につながると思われます。

小生を始め幹事の皆様と共に五三会がより多くの人に有効に利用される様に努力していくつもりです。

五三会では講演会を始め五三会総会・幹事会・建築コンペ等行事がありますので、より多くの方に参加していただきたく思います。

我が国は比類の無い経済発展をし、いまや世界をリードするほどの経済大国となりました。

この様な経済発展にもかかわらず暮らしの上での実感として十分な豊かさを享受するに至っていない面が有ります。中でも暮らしの

基礎となる住宅、住環境の基盤整備水準と言う点では、欧米諸国の整備水準に及ばず、これが国民の経済力にふさわしい真の意味でのゆとりのある豊かさを実感できない原因となっております。

また、高度情報化や事務の効率化等、時代の潮流の中で建築行政の分野もこれからは、OA化が進み、建築界もCAD等の益々のOA化に進んで行くことが予測されます。

この様な諸問題を始め多くの問題の中で採まれて、取るべく道を選択しなければ成らない数多くの同窓の諸氏の苦勞は毎日大変なことと思います。

そんな中でも昨年は新日本建築家協会の1990年JIA新人賞及び吉岡賞の村上徹君、始め建築コンペの入選者の中に同窓生の名前を見付け、同じ同窓の一人として誇りに思うと同時に大変うれしい気持ちになったしだいで

す。最後に同窓の諸氏のご繁栄とご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

OBだより

いなかの美しさ

同窓会の皆さんお元気ですか。私はいつのまにか同窓会の幹事としてがんばっています。同窓会は、“大切な”と一人でも多くなってくれることを願うこのごろです。

今、私の仕事は、建築を卒業したにもかかわらず、川、道路、ダム、公園の設計と幅広い分野の仕事をしています。川の設計では、川の中に入って遊んだり、散歩したりできるようにしています。また、道路の設計では、道路沿いに休んだり、散歩できる場を設計しています。

このような仕事をしているので、景観とか環境とかに興味があります。今、一番気になっているのは“いなか”のことで。今までは、都市には多くの文化施設、ネオン街があり、若い女性が多くいたりして都市に行くことがあこがれでありました。しかし、今リゾートで騒がれているように海へ、山へと、自然を求めて都会の人が、目の色を変えて遊びにいらいます。都市部のあのゴミゴミした忙しい空間を避けて、外へ外へと出ていらいます。

そのような中で、私は、これから“美しいいなか”が求められると思っています。“美しいいなか”というものは、どんなものでしょうか。私が思う“美しいいなか”は、まず山、川が美しい必要があります。川は、コンクリートブロックで作られたものではなく、岸部にタンポポ等の花の咲く水のきれいな川です。

㈱LAT環境設計事務所

上之博文 (50年卒)

山々は、道路等によって切り取られたモルタル塗りの山ではなく、美しい樹木でおおわれた自然の山並でなければなりません。それから、水田もほ場整備が進み、角々とした整形のものになっており、昔ながらの皿形の水田がなくなりつつあります。しかし、大阪の花博にもあったように、昔ながらの皿形の水田でその周囲には、美しい花々が咲きそろう水田も、いなかの景観を形成するには大切なものです。

次に思うのは、その山々、川等の自然空間の中に立つ建物です。東広島市、黒瀬町等に行くと、赤い屋根で統一されたいなかを見ることが出来ます。しかし、その中に白い箱型の家、青い色をしたかわらの家等が点在し、いなかの景観を阻害しています。私は、過去から現在までの“美しいいなか”を何かの形で残し、大切にしていける必要があると思います。これから、ますます日本は、国際化していくと思いますが、外国人がきたら見せるところは、日本独特の誇れる“いなか”の景観だと思っています。

日本の国はいいなあと思える“いなかの美しさ”を常に考えておく必要があると思います。今、卒業して10数年にもなりますが、そんなことを今思っています。



OBだより

い為に、福岡、広島から東京までが充分日帰りの業務圏内に入ってきて、ここに広島とも再び関われるようになってきたのは結果的には良かったと思っているところです。

私にとって広島とは、やはり内にて仕事をするよりは、外からアプローチして仕事をさせてもらう方が性に合っており、私の要求を満たしてくれるだけのキャパシティを広島は持っている訳です。が、前述の「何かひとつひっかかる」というのは、実はこのキャパシティの根底に脈折つ広島独自の風土性みたいなもので、根っからの広島っ子ではない九州男子たる私にとっては、根をはるには、どうもちょっとね、というところではなかったでしょうか。

それにしても、このヒロシマという言葉の持つ響きは、ヨウヘンなどと同一の一種独特の魅力を秘めており、そういった都市で9年近く過ごしたということは幸せ者と思う次第です。卒業して行った人に対し、そのまま何もしなければ大部分の人が自ら疎くなって行ってしまうことに対し、このような会誌、会報を通して、その繋がりを保持するべく献身的な作業をこなされている関係各位に対し、再度、お礼を申し上げると共に、広島を離れて16年、これは取も直さず今の私の経歴であり、再び広島と関わりが持てた事に対し、感謝している昨今です。

こだわるものの発見を

榎原建築設計事務所 開発調査部

前田 眞 (52年卒)

在学生及び同総生の皆様は忙しくまたご健勝にお過ごしのことと思います。

私は、平成元年に住み慣れた広島のを離れ、松山に帰ってきた者です。

自分の故郷は愛媛県内ですが、16年間も広島に住んでいると自分の故郷よりも馴染んでしまって、こちらに住んでいると何か懐かしいような、異郷の地にきたような不思議な感覚で毎日を過ごしています。

私は、広島では、主に都市計画の土地利用に関する仕事（用途地域を決めたり、見直ししたりする仕事）に携わってきました。

こちら（松山）では、現在建築の設計事務所勤務し、まちづくりに関する仕事ばかりでなく建築の企画や設計、監理等の仕事にも関わっております。とはいえ、都市計画のコンサルタント業と建築企画業や建築設計・監理業との仕事の違いに戸惑いつつも、回りの人たちにずいぶん助けられながら、わけのわからないうちにすこしてきたのが実状です。

今、愛媛でも盛んにまちづくりが語られています。

「えひめ地域づくり研究会」が組織されており、地域づくりに関するシンポジウムや会誌の発行等が積極的に行われています。

また、「青年会議所」等においても「まちづくり」の議論が行われています。その中には、地域経営や産業おこし、リゾート開発といったものから景観づくり、路上観察に至るまで

様々なまちづくり論が展開されています。議論の内容は別として、様々な階層において、それぞれの立場でまちづくりの議論が行われていることは好ましく、地方都市においてこそ「まちづくり」が必要であるかということが認められてきている事が感じられます。

私は、現在ある町の「長期総合計画」の策定作業に係わっています。長期総合計画とは、町の行政運営、開発計画、まちづくり活動等の指針となるもので、10年先を目標として立案されるものです。

この町は、農業あり、漁業あり、都市計画あり、リゾートありなどのいろいろな問題を抱えており、それらの問題がそれぞれの立場で議論され、様々な計画が立案されています。

この仕事は、いろいろな計画に対してあるひとつの目標を定めて、計画内容の整合を図りながら調整する事を主眼に考えています。そのためには、この町の将来の舵取の判断を何にこだわって行うかという事が求められます。それは、自然環境であったり、文化であったり、歴史であったり、景観であったり、産業形態であったりします。

今、まちづくりに関する仕事をしていく上で（まちづくりにかかわる仕事だけにかかわらず）、いろいろな調査を行いながらこだわるものを見つけ出し、いかに多くの人と共有でき、いかにそれにこだわるかということが大切だということを感じています。

東京勤務

郵政省通信政策局地域通信振興課

主査 松田 智仁 (55年卒)

(広島市役所より派遣)

「年末・年始の休みは1月1日のみ」とチームリーダーから指示があった……。

平成元年4月に東京事務所勤務・郵政省への派遣を命ぜられて早くも1年と9カ月が経過した。当初は1年間の予定であったが、半年単位で2回の延期があり、現在に至っている。これまでの9年間は、五日市町時代、広島市に合併された後も通して都市計画課勤務であったため、国庫補助調査の説明、補助金申請、都市計画決定の事前協議などで建設省へは何回かおじゃましたことがあり、様子は解っていたが、郵政省へと話があったときにはさすがに驚いた。「いったい、何をしようか」と。

百聞は一見にしかずである。「郵便局のゆうパック」という所ジョージのCMのそれではなかったし、かの有名な郵政営繕でもなかった。情報通信政策と呼ばれる分野の業務である。郵政省は昭和60年の「電気通信の自由化」(世間では「電々公社の民営化」とか「NTT株の発行」などと呼んでいる。)以来、電波及び放送に関する許認可官庁から情報通信政策官庁へと質的転換を図ろうとしている。

私が配属された地域通信振興課は、昭和63年度に新設されたもので情報通信政策のトップランナーである「テレトピア構想(テレコミュニケーションとユートピアの合成語で、モデル都市にニューメディア(ビデオテックスやCATVなど)を集中的に整備することにより、生活情報圏における情報の流通を活性化させ都市課題を解決し、地域の振興を図ろうとする構想。広島市をはじめ全国78地域が指定されている。)」やセカンドランナーである民活法施設(山口テレコムプラザ、福岡タワーなど)の整備などを所管しており、テレコムタウン構想(都市建設と一体的に高度な情報通信施設を整備しようとする構想)や地域テレコム連携化構想(地域における情報の流通や発信力を高める人材の育成・番組の制作を支援しようとする構想)などの新規施策も手掛けている。業務の内容が従来の通信・放送分野に加えて多義に渡るため、構成員も郵政省キャリア以外に、建設省、大蔵省、NTT、

KDD、銀行、県、市からと多種多様である。ちなみに、郵政省が地方公共団体と人事の交流を始めたのは最近のことで、郵政省からは、横浜市、東京都、福岡市、兵庫県、富山県などへ、地方公共団体からは、兵庫県、東京都、広島市の3者で省内では私で通算3人目、現員も3名である。

仕事の中身では、電気通信の技術に関する知識がある程度必要となり、電話級(現在は4級という)アマチュア無線の免許程度の知識では到底手に負えるものではなかった。そのため、着任当初は英略字とカタカナに悩まされながら情報通信システムの設備や機能を一通り勉強し、すぐさま地域からの照会やメーカーの技術者との協議に応じなければならなかった。今でも用語事典は頻りに利用している。この分野は毎年多くの新規技術が開発されており、気を付けていないと新規技術として国が資金を提供して行っていた試験研究が、完了するころには既に一般に普及していたということさえある。

最近省内での話題は、通信衛星の故障などの事故の話もあるが、内閣改造の時期の話や日米構造協議が神風となって生活関連公共事業費2000億円の内、郵政省に初めて公共事業費として約10億円の大蔵省内示があったことである。シーリングという堅い縛りの中、これまで補助金を持っていなかったといっている郵政省にとっては永年の夢であった。そして、地域通信振興課が取り組んできた「地域テレコム連携化構想」に大蔵省の予算内示があり、来年の2月の閣議決定に向けて法律案を作成しなければならないことである。郵政省が国会に振興法を提出するのは昨年度の「特定通信・放送開発事業実施円滑化法」に続き2回目である。先ほどの補助金とともに従来の規制法を基にする許認可官庁から政策官庁に移行するための重要なステップである。

7月からこの連携化構想の予算要求プロジェクトチームに参画していた私は、必然的に法案作成プロジェクトチームに召集された。予算要求段階では、補佐以下5名だった人員が、法律案作成段階では10名に増強され、課長級

特報

1990年 JIA(新日本建築家協会)
新人賞に、村上徹氏受賞される。

新日本建築家協会(JIA)は、1990年、10月17日、新人賞に村上徹氏(村上徹建築設計事務所代表)の「坂町のアトリエ」を決定され発表されました。

又、本年、第7回吉岡賞/JAhouse新人賞を「中山の家」に於いても受賞されました。

村上徹氏は、建築学科の昭和47年卒で、五三会員でもあります。

五三会では、12月定例幹事会兼忘年会に出席されました村上徹氏に、受賞記念としてささやかではありますが、花束と記念品を贈り、今後一層の御活躍を期待し、御祝い致しました。



花束贈呈の様子
(12月定例幹事会にて、写真左側 村上徹氏)

—都市アメニティー—

麻涌池組 田 中 通 典 (47年卒)

昨年秋、機会に恵まれ都市アメニティー海外視察に参加した。日本では驚異的な経済発展とともに、世界でもかつて例を見ない規模とスピードで都市化が進んできた。

都市は労働の場として、消費の場として、また情報交換・発信の場として人々を企業を吸引し続け、このヒト、モノ・カネ、情報の都市への集中が、現在の日本を創り出す原動力であったとも言える。そして21世紀を目前にした現在、激動する社会と同じく「都市」を取りまく環境もまた、これまでにないダイナミックな変化をしており、人を引きつけ、企業を引きつける「都市の魅力」を如何に創造していくかが大きなテーマになりつつある。

「都市アメニティー」は、魅力ある都市の重要な要素の一つであり、日本の都市が21世紀に向けて早急に整備しなければならない機能でもある。当視察は、このような視点から海外の都市を総合的に視察・調査し、都市アメニティーのあり方を探ることを目的として企画された。

視察対象都市としては、歴史的・文化的遺産が息づいている中で、しかも市民生活と融合している欧州のミュンヘン・リヨン・トリノ・ミラノ・フィレンツェ、歴史的な蓄積は少ないものの都市の近代化、特に都市部の開発にあたって産・官・学・民が一体となって、人間にとって快適な都市空間の形成に邁進しつつある米国のボストン・ピッツバーグ・

シアトルの8都市であった。

■人間主体のまちづくり

さて今回の海外視察において、我が国の都市空間との相違点として、まず第1に感じた事は、人間主体のまちづくりが徹底されていることであった。

ミュンヘンでのソーシャル住宅開発（じっくり時間をかけた修復型主体の開発）や、都市部での歩行者天国の実現など歩行者主体の交通政策の実践、行政の都市開発計画推進時における市民の合意形成への十分なる配慮の伝統、トリノにおけるローマ通り等、市内中心部での乗用車乗り入れ規制、ボストンでの地下ハイウェイ建設（高架ハイウェイの撤去）、人を引きつける都市の魅力を損なわないように都市の成長速度を管理しようとしているシアトルの例など数多くみうけられる。

■わがまち意識

第2には、世界に誇れる「わがまち意識」が各セクターに共通してみられる点であった。それらは他の巨大都市を模倣し、追随するのではなく、その都市の歴史的・文化的、さらには自然環境的地域特性を充分考慮した上でより一層その独自性・自分性を世界に通用するレベルまで磨き上げることにについて各セクターのコンセンサスができてきているようだ。

バイエルン王国800年の歴史の中で蓄積された建築文化やデューラー、ルーベンスなど美術作品のストックを誇る美術館群、国立オ



世界的イベント・オクトーバーフェスト



地形、歴史、自然が調和のとれた町ーリヨン

ペラ劇場等での世界最高水準の音楽芸術文化活動、一大地場産業たるビール醸造業を生かしたテレジェンヴィーセ広場での世界的イベント、オクトーパーフェストなど、わがまちの誇りは何であるか的確に把握し、それを守り育てているミュンヘン。*「伝統工芸における染色技術や素材の良さを生かしたミラノコレクションおよび歴史的建築物たるドウオモやスカラ座、ヴィットリオ・エマヌエーレ2世ギャラリーなどと融合した街づくりのミラノ」。*「ハーヴァード、M. I. T. といった学術文化及びチャールズ河畔、ボストンハーバーの景観、さらには合衆国建国時代の面影を残す歴史的建造物の活性化を図っているボストン」。*「公害都市より「全米で最も住みよい都市」(88年) への変身を積極的にアピールするピッツバーグ」など、「わが街」を世界に向かって誇れるアイデンティを的確に見定め、頑固なまでにそれを守り育てている姿勢には教えられるところが多かった。

■産・官・学・民のネットワーク

自らが居住し、業務に従事し、さらには余暇活動を楽しむ都市をよりアメニティ豊かな都市へ向上させて行く主体は、ほかの誰でもない市民個人個人や、その都市で活動を続ける企業であり、さらには大学である。そしてそれらを行政がよいネットワークを保ちつつ、実行力を有して着実に真にアメニティ豊かな地域社会を築き上げている例が、1970年設立

以来都市開発計画に対する市民サイドの建設的な意見提案組織として積極的な活動を展開しているミュンヘン・フォーラム、さらには活発な企業の文化活動の存在（カーネギー博物館他）を積極的にアピールするグレーターピッツバーグオフィスオブプロモーション、シアトルにおけるCAP（市民による代替計画）提案運動による都市の成長発展と市民生活の質の確保とのバランスのとれた両立などアメニティ豊かな街づくりへの企業・市民・学校などの主体的な取り組みが欧米には数多かつた。

このほか今回の視察では、各都市における歴史的、文化的建築物と、その都市に住み、働き、遊び、学び、そして交流している地域住民との一体性など、吸収した成果は多かつた。今後このような成果をいかしながら魅力ある都市づくりをしていきたいものである。

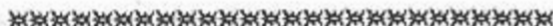


歴史的建築物・ドウオモ



公害の街から大変身をとげたピッツバーグ

在 学 生 だ よ り



平成2年度行事

五三會学生部會

大学3年間があつという間に過ぎ、4年生に成つてこの五三會学生部會役員に成り、今日まで仕事をやつて来ました。建築学科生に「五三會学生部會」という名前を浸透させるため、学科生の活発化、活性化をはかるためにいろいろ努力してきました。そこで平成2年度の活動内容をあげてみます。

平成2年度の活動内容

- 4月 新入生オリエンテーションセミナー
五三會の説明及び新入生との交流
- 11月 工大祭
卒業設計展示、ゼミ紹介、実験室公開、
五三會コンペ発表など
ソフトボール大会
3、4年生のチューター会に協賛、企
画運営をする。
五三會学生部會主催ボーリング大会
建築学科全学年の集い(約200名参加)
1年生から4年生までの交流を図る
- 12月 新役員、1、2年生役員選出
- 平成3年

3月 卒業生謝恩パーティー(予定)

以上のような活動内容でした。このような数少ない行事でしたが、企画、運営、協力することによって、4年生同士のつながりや、先生方、建築学科全体そしてOBの方々と、一般の学生以上に親しくなれたような気がします。

新役員も決まり、私達は卒業を待つばかりとなりました。この仕事をするにより、いろいろな人と知り合う機会ができました。新役員達にも、いろいろな経験をし、建築学科の発展のために努力してもらいたいと思います。そのためにも、学生諸君、OBの方々の御協力をしてやっして下さい。

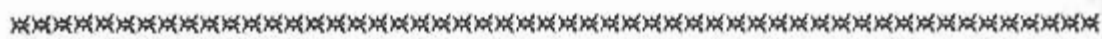
これからの五三會学生部會

学生部會会長 車地直樹

学生生活の最後の年に五三會学生部會の幹部に成り、いろいろなことをやつて来ました。会長に選ばれたときは、簡単な気持ちで引き受けたのですが、五三會の役員に選ばれて初めて五三會というものを知つた私が中心と成り、運営しようと思つても少々無理があつた様に思ひます。そのため他の役員の方に迷惑をかけたかも知れませぬ。

私同様、1年生から3年生までのほとんどの学生は、五三會と言うものを全く知らないと思ひます。私が思ふのに今の五三會は形式ばかりで本来の機能はしてない。ただ役員に選出されたものが仕方なしに形式を保つているだけの会である。本当にこのままでいいのだろうか。建築学科の発展とか堅苦しいイメージからではなく、最初は遊びの企画でもいいから1年生から4年生まで全学年の参加で行事をして浸透を図り、先輩との交流することで学生生活を充実してほしい。単位を取ることとアルバイトだけが学生生活ではないと思ふ。コース分け、ゼミ選択、就職の相談など先輩と知り合い、助言してもらうことで学生生活を有意義に過ごしてもらいたい。これからは五三會学生部會を各学年とのコミュニケーションの場として、建築を親しめる場とし活性化して行ってほしい。





国際都市ひろしま工業大学

猪木伸昌

世の中クリスマス気分でいっぱいである。どこに行ってもシングルベルの軽快なリズムが聞こえてくる。来年こそは…いやいやそんななか私は、卒業論文に大忙しなのである。そんなおり五三会の役員の方から執筆を頼まれた。私は小さい頃から文を書くのがどうも苦手である。お断りすべきだったと思ったが、副会長の奥君にどうしても、といわれては断りきれない。

私は入学以前、余りにも工大のイメージを美化しすぎていたためか、この大学に入ったことをとても後悔したものだった。どこを見てもむさ苦しい男ばかりだったからである。このむさ苦しい雰囲気になれてはじめて工大生と呼べるのではないかと思えるようになったのは、1年目がすぎようとしていた頃だった。今ではそんな雰囲気がとても居心地良く感じられるようになった。ここまできるといま流行のミスターレディーになれるまであと一歩である。そんなことないか。ははは。

ところで私は、野球部に所属していたのであるが、入部していろいろ学ぶ事が多かった。

それと同時に得たものも多く、大学生活の中で大変プラスになった。夏のうだるような暑さの中、練習に明け暮れたのもいい思い出となるだろう。

4年間「大学」というところで過ごしたが、一番充実した日々を過ごせたのはやはり4年目の今年だろう。「お勉強」ではなく「勉強」しているような気がする。そんなところからこの充実感があるのだろう。

そんな勉強している学科が建築学科。とてもおしゃれな響きではないか。この国際都市広島にとってもびったりとマッチした感じがあると思うのは僕だけではないはず。そんな「ひろしま」の少しはずれにある広島工業大学。激動の年1990年にその工大において日本建築学会全国大会が開催された。このイベントに参加できたことはたいへん好運であったと思う。たった4年間ではあるがいろんな事があった。必ずしも楽しい事ばかりではなかった。しかし、この工大で学べた事を誇りに思いながら卒業していきたい。

母校広島工業大学を主会場として 1990年日本建築学会・中国大会開催される！



受付の様子

13年振りに広島の地で開催された1990年日本建築学会大会（大会委員長 広工大 椋代仁朗）は、10月5、6、7日の3日間にわたり挙行されたが、その殆どが台風21号の接近によって雨まじりの悪天候となった。それにもかかわらず、特に本学を主会場とする学術発表への参加者は6,400名（延べ約15,000名）の多数にのぼり、これは大会史上の新記録となった。また、発表題数も4,077題の多くを数え、これらの発表会場のほか、研究協議会、P.D.、研究懇談会、卒業設計展などの会場を加えると、実に50に達する教室となり、本学における殆どの教室が使用の対象となった。この他、本学で開催された行事は10月4日の懇親テニス大会（沼田校舎）、10月5日の大会懇親会（ア

ベベ食堂）、10月5日～6日の建築CAD・CD展（情報センター）である。本学以外での開催行事は、記念講演会藤本統紀子「都市空間・広島の魅力」およびシンポジウム「建築の生命を考える」（広島国際会議場フェニックスホール）、建築設計展示会（広島県情報プラザホール）、中国地方の町並美展とシンポジウム（福山美術館）など。

現在、建築をとりまく諸環境はまことにきびしいものがある。10年後の21世紀を目指し、これらの課題を一つ一つクリアーしながら、建築界をリードしてゆく責任の一端を学会は担っていると言える。このような意味で、1990年開催の本学における本大会は誠に意義深いものと確信している。幸いにして、本大会に



学術発表会場



パネルディスカッション会場

は高い評価が与えられ、成功裡に終了したといえる。これは一重に学長をはじめとする本学教職員の皆様方の深いご理解、ご支援の賜である。また、本学建築学科教職員および協力学生挙げての精力的な活動も特筆に値する。

大会の運営については、本学建築学科4年生を中心に約150名の協力学生の協力を得て、まことにスムーズに行われた。大会初日の5,000名以上の来学者に対する応対や接待、各講演発表会場の進行、外回りの清掃・誘導、どれをとってもきばきと進行しており、運営に関し多方面から非常に多くのおほめの言葉を頂き、大変喜んでいる次第である。

また、学術講演発表者として参加された本学卒業生も20数名と多く、広島工業大学の卒

業生の多方面での活躍の一端が現れていた事も見逃せない事実である。



16th ITSUMIKAI COMPETITION

第16回五三会コンペ入選発表

コンペ報告

第16回五三会コンペは、建築雑誌等で御存知の方も多いと思いますが、県内を中心に、建築家として御活躍中の小川晋一先生に課題作成、審査をお願いしましたところ、このコンペの意義を御理解下さり心善く御引受け下さいました。小川先生より出題された課題は、未来派住居というもので、住居の持つ可能性を問うような大変魅力的な課題にコンペ委員一同大きな感心を持って9月30日の締切の日を迎えました。

応募作品は、広島工業大学4作品、近畿大学工学部1作品、いずれも力作がよせられました。10月8日小川先生のアトリエにて厳正かつ公平な審査が行なわれその結果は下記の通りとなりましたが、入選された方も惜しくも選に漏れた方も共にその水準は高く思われ応募者の方々の今後の御活躍と次回の応募を楽しみに致しております。

11月4日には、広島工業大学にて、表彰式ならびに作品の講評会が行なわれました。小川先生には、一つ一つの作品に木目細かい、講評をいただき、大変内容のある講評会となったと同時に和やかな雰囲気のまま、この会が終了することを御報告致します。

又末尾となりましたが、小川晋一先生には御多忙の中、課題作成、審査そして講評ととにかく御協力いただいたこと厚く御礼申し上げますと共に先生のこれからの一層の御活躍をお祈り致しております。そして我々五三会コンペ委員も応募して下さる方々の力作を励みに第17回、第18回と益々魅力ある五三会コンペへと努力致しますので、皆様の御指導宜しくお願い致します。

五三会コンペ委員
盛岡隆治

最優秀賞
鳥羽知夫 (近畿大)

佳作
藤崎重則 (広工大)

訂正とお詫び

- P.21のコンペ応募作品の最優秀賞と佳作の写真が入れ替っておりました。
- P.26とP.27の「エンジニアリングコース」と「デザインコース」のタイトルが入れ替っておりました。

以上、訂正致しますと共に深くお詫び申し上げます。

建築家 小川 晋一

五三会のコンペも回を重ねて16回をむかえられたことを御喜び申し上げます。

今回の課題は、ある広島市内及び近郊の敷地で実現の可能性を含むとしながらも、イメージや考え方の提案という、アイデアコンペに近いものであり、ややとりつきにくい課題であったのかもしれないと思っています。

現在の建築をとりまく複雑かつ、様々な状況の中で、肯定した“未来”、建築の領域の拡がりを認めた“未来”として、まだエポックメイキングな出来事を期待できる何かが存在し、ものづくり方においても境界を超えた違う組み立ての方法のようなものがあるという気がしています。

彫刻が大きくなって機能を持ちはじめたり、インダストリアルプロダクトが中で生活できるほどにメカニズムの集積体として、スマートにハイブリッドに領域を拡げてきたり、建築が未だ、モダニズムの生み出した素材と工法、設備エレメントを単純で自然なクロズドシステムとして使いこなしていない時期に、今もう一度、造形的な手法の解決のみでなく、人類と自然と技術の相互関係の整理、可能性について考え直してみることの重要性に気づかされます。

今回の課題は、それを建築環境の中のミニマムかつ基本単位ともなり得る住居をとおして考えることで、やわらかな頭脳を持ちあわせる若い人達の案に期待し、おぼろげながらも、その新しい創造の発見と未来に繋げたいというものでした。

応募案の中から、優秀賞の鳥羽案は実現に

むけて多くの課題を持っていると思われませんが、人間と人工物と自然との関係が直接的でわかりやすく、新しい住宅への憧れと夢が感じとれ、計画案自体にも居住スタイルとしての新たな可能性を含んでいるように思われました。

佳作の藤崎案は、海がひとつの手がかりになり得るということで、それを追求し、魅力的な提案に仕上がろうとしていたのですが、今一步詰めの密度がほしかったように思われました。その他の応募案もそれぞれに共感できる着眼点や発想を含んでいたと思われましたが、計画と表現のもう一息の詰めのようなものが結果を分けさせたのではないかと思います。

全体をとおしてもうひとつ期待したかったことは、例えば、組み立ての技術に言及を加える人、アーティスティックなアプローチをする人、インダストリアルなものづくり方をする人、コンセプトアルなもの等、建築の既存の枠組みを超えて、拡げたり、或いは原点にシフトしたりして考えてほしいというものでした。

しかし、それぞれに個人の考え方や、抱いている建築のイメージには、これから大いに開かれた未来があり、自分自身の追い求めたい建築の可能性の実現にむけて影ながら声援をおくりたいと思います。

最後になりましたが、応募者各位の健闘を心から称えますとともに、意義深いこのコンペを支える五三会OB諸兄の活動に敬意を表したいと思います。



建築学科ゼミ紹介

(ゼミ毎の卒研テーマ)

(指導教員 中尾 好昭)

- 相原 和志 鉄筋コンクリート造建物の床振動に関する研究
 秋山 圭司 鉄骨造高層建物用PC壁版の復元力特性実験
 井上 博和 RC模型製作の工数低減に関する研究
 上杉 一夫 立体骨組構造の振動解析汎用プログラムの研究
 内村 健一 高強度コンクリートの調合に関する研究
 江良 弘樹 インナーシールド溶接に関する予備研究
 兼清 典彦 衝撃力による機械基礎振動の模型実験
 川尻 明彦 鋼板のプラズマ切断の自動化に関する予備研究
 佐藤 仁哉 列車による建物の振動に関する研究
 水井 克治 高強度コンクリート製PC壁版の耐震要素化試設計
 難波 玉緒 鉄骨造高層建物の免震化に関する研究
 西田 恵司 鉄骨造高層建物におけるPC壁版の耐震効果に関する研究
 船越英登志 クレーン構造体の地切り時振動に関する研究
 安田 直美 法隆寺の立体構造解析
 吉田 誠司 有限要素法によるPC壁版の剛性解析

(指導教員 佐藤 立美)

- 青木剛志・小田慶史郎 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震性能に関する研究
 大戸盛弘・金久孝志 鉄筋コンクリートの構造目地の応力伝達に関する研究
 岡崎研二・竹本和弘 鉄筋コンクリート部材のひびわれ算定式に関する基礎的研究
 岡崎照宏・郷原信児・吉田隆洋 新形状の補強筋によるRC有孔梁の剪断耐力と変形性能に関する実験的研究
 増田憲治・早川泰弘 薄肉鋼板補強材で補強したRC有孔梁の終局耐力に関する実験的研究

(指導教員 丹羽 博亨)

- 水上有三・八田彰伸・矢野和文・山下幸誠 (論文)法隆寺金堂の構造解析
 重盛浩明・白石 真・館 正文 (論文)甘日市町並に関する研究
 門脇 敦 (設計)水郷・松江の市庁舎
 中山 健治 (設計)アダブダブルシアター
 鍋島 繁 (設計)週休三日へ向けての保養所
 橋爪 大輔 (設計)海座・小宇宙…未来都市
 浜田 剛 (設計)遊楽島
 原田 清児 (設計)リゾートホテル
 梶田 剛 (設計)舞…有料老人ホーム
 山本 博信 (設計)甘日市コミュニティセンター
 横山 和晴 (設計)シーサイドホテル
 和氣 国男 (設計)甘日市コミュニティセンター
 白石 博士 (設計)ヤングアダルトのためのリゾートホテル
 田村 尚之 (設計)吉和青少年スポーツセンター
 松本 浩一 (設計)広島シネマクラブ

(指導教員 水田 一征)

- 岡田 紀道 都海
 小原慎太郎 停泊の方舟
 川本 和法 自己開発の場
 木原 亮子 Fantasy
 小倉 義弘 the place for performing arts—"Craft"
 塩川 泰祐 Serious Photo School "Box in Box"
 末田 善友 —Fusion of Illusion—
 寺本 祐司 "つくる" —recreate yourself—
 藤岡 道生 桃源郷
 藤崎 重則 "Oasis"休息の地を求めて
 塚田今日子 游泳
 木村 真二 signalar point

(指導教員 藤原 道正)

- 葉山健一・伊藤良子 女性の椅座安静時の代謝熱量に関する研究
 杉本 明・広瀬敬一 空孔を有する建築材料の熱コンダクタンスに関する研究
 谷中隆博・橋本 智 中国地方の設計用外気条件の整備(露点温度の場合)
 早志敏則・室 正信 中国地方の設計用外気条件の整備(乾球温度の場合)
 猪木伸昌・丹下政彦 事務作業時の代謝熱量に関する研究
 奥 秀利・川野芳樹 各種温熱生理量の比較に関する研究
 阪本泰行・清水達也 運動負荷時の代謝熱量に関する研究
 土居弘房・兼久 賢 山陰・山陽地方の都市住宅における夏・冬の環境調節法に関する調査研究

(指導教員 森保 洋之)

- 田中 実・高木孝人 集合住宅の戸建感に関する住民意識調査の分析(論文)
 沼崎 仁・岡本真理・奥田将生 建築形態の視覚的把握に関する建築計画的的研究(論文)
 天田 茂 学校と地域教育関連施設の連携に関する計画的的研究(論文)
 中原 孝明 異次元のハーモニー(設計)
 井上 祐司 Culture Mixed Square(設計)
 杉谷 三雄 場所性と身体性を求めて(設計)
 志村 賢司 KOKU(設計)

(指導教員 天満 祥弥)

- 吉賀淳二郎 芸術発展計画—演劇のための劇場設計—
 辻井 俊久 都市の街路景観の色彩調査—呉市における建築外装の視感反射率・色度の測定
 前田 康彦 活力と潤いのある街の体育館—魅力的な体育館設計—
 岡村 達磨 シニアハウスの設備計画—高齢者向け小規模マンションの設備設計—
 小野田真樹 小学校の設備計画—コミュニティセンターを併設したオープンスクールの設備設計
 木村 昌幸 複合映画館ビルの設備計画—安全避難のた

め防災照明設計—
 大規模小売店舗の設備計画—初期消火と延焼防止を目的とした消防防災システム—
 都市における外部視環境の調査研究—岩国市における建築外装の視感反射率・色度の測定と分布調査
 図書館の設備計画—快適な読書環境のための設備設計—
 オフィスビルの設備計画—人間性豊かなインテリジェントシステムの設備設計—
 スポーツセンターの設備計画—社会体育施設におけるスポーツ照明—
 リゾートホテルの設備計画—火災時における排煙対策方法—
 市街地型水族館建築設備
 建築経済に関する統計調査—建築費における地域差と時系列安定性について
 木造住宅におけるシロアリの被害調査—アンケートによる中国地方の現状—
 シロアリによる木造住宅の被害の調査—中国5県のアンケートによる結果—

(指導教員 高松 隆央)

池上輝明・田中達也・長久智幸・橋原敬三・藤原孝洋・柳谷恵一
 軸力と曲げを受ける日形鋼の局部座屈後挙動に関する研究
 石田 誠・石田吉慶・高野武彦
 接合部変形を考慮した骨組構造解析法に関する研究
 叶木 守・平野修一郎・藤井和政
 ゴム材料特性を有する3次元構造物の解析法に関する研究
 池村秀明・上山 誠・田村靖雄
 角形鋼管柱・日形はり接合部の変形性状に関する研究
 河原林 誠・窪 久史・二宮清勝
 円形孔を有する日形鋼はりの補強方法に関する研究
 中村公大・牧野昭宏
 高力ボルトの軸力測定法に関する研究

(指導教員 佐藤 洋)

木村賢志・下村 渉・西田 尚・芳賀英樹・吉本 学
 建築形態における幾何学とその操作法 その1、アンドレ・バラディオについて
 池田昌人・岡崎克也・河本光夫
 建築形態における幾何学とその操作法 その2、ル・コルビュジェ
 語り合える住宅
 並木通りの音による人間環境の再生
 商工センターに建つ老人施設
 NEO-CITY
 接線上の戯れ
 呉市吉浦のウォーターフロント試案
 王泊り湖畔のレジュー施設
 瀬戸内海の島に建つリゾート施設
 吉和村におけるエコロジー計画試案

(指導教員 菅原 辰幸)

菅井直彦・高木 隆

増井 順一
 建物の立地と規模に関する研究
 日本・韓国における地方都市の産業立地に関する比較研究
 松下 明正
 (設計)老人福祉施設
 松尾 守敏
 (設計)ホテル
 松本 一志
 (設計)市民文化センター
 三田康志・和田和彦
 建物の立地と規模に関する研究
 赤道 大作
 (設計)シティ・リゾートホテル
 田中哲哉・小田勝利・伊達喜樹
 建物の立地と規模に関する研究

(指導教員 西川 加禰)

石川 聡明
 マンション建設の設計プロセスに関する研究
 岡田主司・金井 豊・村上起夫
 店舗付マンションの設計計画に関する基礎的研究
 岩本 克好
 広島市江波津に建つマンションの設計
 小川 裕二
 広島市江波津に建つ高層住宅の設計
 小川 淳
 広島市草津に建つ社会福祉センターの設計
 河本 達也
 高齢者を配慮した緑とらうのおいのある集合住宅の設計
 小原 隆
 広島市江波津に建つ中層集合住宅の設計—高齢化時代・自立・和—
 車地 直樹
 Water Front Community Town AKI—緑と太陽のあたる21世紀の街—
 高橋 康暢
 広島市江波津に建つリバーサイドパラシオンの設計
 宮田 幸待
 リバータウン—パラシオン—マンションの設計—
 村上正史・吉岡隆治
 広島市江波津に建つ集合住宅の設計
 吉川富士夫
 広島市江波津ウォーターフロントマンションの設計
 佐藤智博・原 邦哲
 三村武史(ご逝去 平成3年1月20日)
 高齢化社会に於ける公営住宅のあり方に関する研究

(指導教員 清田 誠良)

岩田直通・新矢泰久・早川裕美子
 高層建築物周辺における地上面圧力抑制に有効な建築物の形状に関する実験的研究
 岡本光功・藤本泰成
 建築物周辺の地上面静圧分布に関する実験的研究(模型形状を変化させた場合)
 常重敏康・石浦浩二
 建築物周辺の地上面静圧分布に関する実験的研究
 川西博司・白川昌彦・杉浦弘一・田中直康・中山 清・木田泰則・藤本淳一・山崎圭子・吉川 潔
 都市内の海陸風循環が温熱環境に及ぼす影響の調査・解析
 手島小百合
 広島県における風向・風速の解析に関する基礎的研究

(指導教員 手越 義昭)

竹園 宏・田中雄三・中塚 修
 建築物設計における生成検証法をもちいた組合せ選択問題の一解法

1990年度内定者一覧表

〔エンジニアリングコース〕

氏名	事業所
石川	昭司
井上	聡祐
岩本	祐克
岡田	主紀
岡田	紀
岡田	部
岡田	部
小川	真裕
小沖	和
小原	慎太
小原	隆
小門	教
金川	豐司
川本	博和
河本	達亮
木倉	賢明
倉車	直二
古小	義美
佐藤	伯美
榎谷	直
榎重	泰浩
下白	善
末高	康正
高部	俊祐
田辻	道孝
寺中	明
磨中	治
中鍋	繁生
西沼	高
芳橋	英大
橋原	清道
藤原	重
藤	則

子彦 一志 剛修 大清 治則 緒久 司三 哲子 則毅 介一郎 一政 一成 洋志 俊宏 治信 美一 一司 洋二 士剛 也雄 勝賢
 今康 順隆 公 克 泰玉 泰憲 敬 裕美 敏 健修 一 敬和 淳泰 孝美 正昭 惠正 直憲 裕誠 隆浩 久 達 靖清
 田井 田田 塚村 山井 田波 矢田 原本 川志 倉野 野瀬 井本 本原 越谷 野田 田谷 川田 田浦 藤木 水村 宮久
 堀前 増増 梶中 中中 永永 難新 西橋 橋早 早番 平平 廣藤 藤藤 船細 牧増 室安 柳横 吉吉 石加 佐清 田二 兼

〔デザインコース〕

氏名	事業所
相原	志志司
青木	和剛
猪俣	圭伸
池田	仲輝
池田	石秀
伊藤	吉良
井上	博直
岩上	内雄
江大	弘盛
岡岡	研照
岡岡	達光
奥小	野慶
小叶	兼典
兼金	上明
上川	川芳
川河	原昌
河木	久健
窪藏	来健
郷後	阪公
佐白	杉仁
杉瀬	十昌
高竹	野弘
竹田	国邦
田田	末研
	中武
	中中
	中中
	中中

博彦 幸康 合房 敏正 志利 三志 侍史 大伸 文子 誠信 晴治 潔夫 司学 男幸 彦作 人也 生夫 博士 雄哉 之 茂 哲一 史利 二人 樹弘
 隆政 智敏 小百 弘守 明一 和育 康幸 正起 彰利 圭幸 博和 隆富 賢 国真 和大 昌克 将光 智博 三哲 尚 邦浩 武勝 真孝 喜泰
 中下 久重 島居 尾下 本本 上田 田上 上田 野崎 下本 山岡 川川 村本 氣部 田道 田崎 田本 藤石 谷中 村田 本村 田村 木達 川
 谷丹 長常 手土 松松 松水 三宮 村村 八矢 山山 山横 吉吉 吉吉 吉吉 和渡 和赤 池岡 奥河 佐白 杉田 田天 原松 三小 木高 伊早

〔 広島工業大学建築学科 教員及び非常勤講師名簿 〕

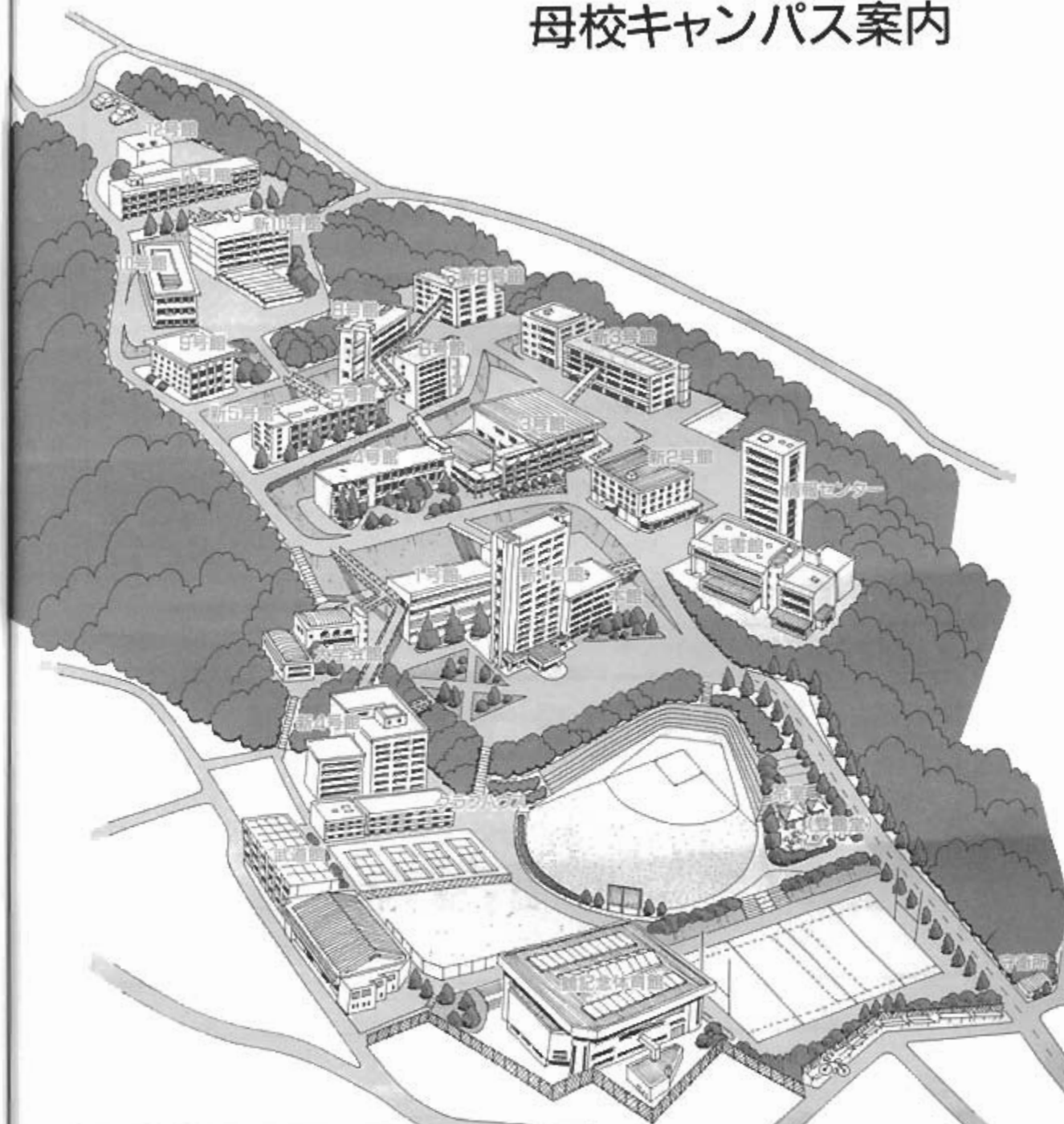
〔建築学科教職員・専任教職員〕

氏 名	住 所	郵便番号	電話番号
中尾好昭	教 授		
佐藤立美	〃		
丹羽博亨	〃		
水田一征	〃		
篠原道正	〃		
牛島賢象	〃		
椋代仁朗	〃		
森保洋之	〃		
天満祥弥	助 教 授		
高松隆夫	〃		
佐藤洋	〃		
菅原辰幸	〃		
西川加瀬	〃		
清田誠良	講 師		
手越義昭	〃		
大 林 真	技術職員		

〔招聘講師〕

佐藤重夫	夫
林 公重	重
青木 栄夫	栄
谷 喜夫	喜
杉 本 俊多	俊
小野 泰芳	泰
入野 忠芳	忠
石馬 秀宣	秀
田中 衛一	衛
花 輪 恒	恒
川 田 潤	潤
喜多村 幸夫	幸

母校キャンパス案内



- 電子工学科……新1号館
- 電気工学科……新10号館
- 機械工学科……6号館
- 土木工学科……新2号館
- 建築学科……新3号館
- 経営工学科……新4号館
- 一般教育……新4号館
- 基礎教育……新5号館
- 電算センター……情報センター1F
- 工作センター……8号館
- 工学研究所……11号館
- 学園本部…新1号館
- 大学事務局…本館

第23回(平成3年)総会のお知らせ

日 時 平成3年4月27日(土曜日)

1. 工大同窓会……午後4時
2. 五三会総会……午後5時15分
3. 懇親会……午後6時

場 所 広島市中区大手町1丁目5-3 県民文化センター TEL(082)245-2311

内 容 建築学科同窓生五三会会員の多数が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、活動報告や会計報告を行ってのち、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で親睦をはかる。

参 加 参加者は、下記事務室に電話連絡か、又は官製葉書に“出席”と書いて4月10日必着をもって申し込み下さい。

(あて先)

広島市佐伯区五日市町三宅 広島工業大学建築学科菅原研究室
〒738 TEL (0829) 21-3121 内465

会 費 4,000円 なお、懇親会は、工大同窓会と一緒にいきます。

会費は当日御持参下さい。(尚、会費のうち1,000円は五三会が負担致します。)

【案内図】



五三會

活動報告



幹事長 下田 卓夫

「五三會」会員各位におかれましては、増々の御活躍のことと存じます。五三會は、本年度の卒業生を迎え23年目となりました。以来、会員各位の親睦と母校建築学科の発展に貢献すべく活動しております。平成2年度の活動は、以下のとおりであります。まず五三會コンペは、建築家、小川晋一氏を審査員に迎え、県下の在学生を中心とした作品に対して、適切なアドバイスをいただき、充実したコンペとなりました。ありがとうございます。また、9月に韓国の東亜大学校教授金晟坤氏及び、江原大学校教授金南珏両先生を迎え、韓国における建築や都市計画の近況について、講演会を広島校舎で行ない有意義な機会をもつことが出来ました。今後「五三會」活動として、幹事会組織の充実を図るとともに、「五三會」としての活動の場を多に広めてゆきたいと思っております。つきましては、会員各位の御理解と御協力、御参加をよろしくお願い致します。

平成2年度活動報告

1. 会報誌「五三會」第18号発刊
2. 第16回五三會コンペの実施
3. 五三會幹事会組織の充実
4. 五三會会員増加運動
5. 五三會会員住所カードの整理

平成2年度役員

- (会 長) 三上明夫 (KAZI建築設計工房)
(副 会 長) 森田洋生 (広島市役所)
中島伸夫 (株L A T環境設計事務所)
(会 計) 村上憲弘 (株青木設計事務所)
松本孝志 (広島市役所)
(会計監査) 下 建蔵 (広島県庁)
三宅智之 (広島県庁)
(書 記) 梶山孝之 (梶山設計)
上之博文 (株L A T環境設計事務所)
(幹 事 長) 下田卓夫 (株アーバンブレン)

五三會は、昭和58年度から終身会費制を導入しており、会員のみにも会報を発送させてもらっています。会費未払いの方及び未加入の方は早急に手続きをお願いしたいと思います。下記五三會事務局へ御連絡下さい振込用紙をお送りさせていただきます。

〔五三會事務局〕

広島市佐伯区五日市町三宅
広島工業大学建築学科菅原研究室内
〒731-51 TEL (0829) 21-3121



五三会収支決算報告

平成元年度収支決算報告

◆収入の部		(単位 円)
繰越金 (終身会費基金)		3,578,015
新会員会費	590,000	
広告料	670,000	
雑収入	139,199	
合 計	4,977,214	

◆支出の部		(単位 円)
印刷費	499,035	
郵送費	102,275	
会議費	103,720	
銀行送料	0	
総会負担金	286,746	
コンペ費	220,000	
在学生援助費	0	
バイト費	12,000	
消耗品等雑費	200	
子備費	500,000	
(総会負担金)		
繰越金 (終身会費基金)	3,253,238	
合 計	4,977,214	

平成2年度収支予算(案)

◆収入の部		(単位 円)	
科目	小科目	金額	摘要
会費収入		700,000	70名×10,000
	新会員会費	700,000	
活動収入		750,000	
	広告料	750,000	
雑収入		6,762	
	利子収入	1,761	
	寄付収入	1	
	雑収入	5,000	
積立金取崩収入		0	
	積立金取崩収入	0	
繰越金 (終身会費基金)		3,253,238	
	繰越金 (終身会費基金)	3,253,238	
合 計		4,710,000	

◆支出の部		(単位 円)	
科目	小科目	金額	摘要
管理費		490,000	
	総会費	100,000	
	会議費	210,000	
	バイト費	50,000	
	消耗品費	10,000	
	備品購入費	50,000	
	印刷費	40,000	
	通信費	20,000	
	雑費	10,000	
活動費		1,120,000	
	会報発行費	820,000	会報発行費内訳
	コンペ費	200,000	印刷費 550,000
	会勢費	50,000	郵送費 270,000
	学術文化費	50,000	(900部×300)
子備費		500,000	
	子備費	500,000	
積立金		2,600,000	
	積立金	2,600,000	
繰越金		0	
	繰越金	0	
合 計		4,710,000	

広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交遊を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
 - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
 - (3) 会誌及び会員名簿の発行
 - (4) 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
 - (5) その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以って組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築学科卒業生のうち会費を納入した者
 - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築学科卒業生
 - (3) 学生会員 広島工業大学建築学科在学学生
 - (4) 客 員 母校職員及び旧職員
 - (5) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長 | 置くことができる | (2) 会 長 | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名 | (4) 会 計 | 2 名 |
| (5) 会計監査 | 2 名 | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事 | 若干名 | (8) 書 記 | 2 名 |
| (9) 評 議 員 | 各卒業年度に若干名 | | |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す。
 - (2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記・評議員は総会で正会員の中から選ぶ。
 - (3) 幹事長は幹事の中から互選する。
 - (4) 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。
- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を統べる
 - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
 - (3) 会 計 会計事務に当る

- (4) 会計監査 会計を監査する
- (5) 幹事長 会務を主宰する
- (6) 幹事 会務を処する
- (7) 書記 書記事務に当る
- (8) 評議員 会務を評議する

第 9 条 役員は任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章 顧問

- 第 10 条 この会に顧問若干名をおく
- (1) 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する
 - (2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- (1) 会則の変更と改正
 - (2) 決算及び予算
 - (3) 役員改選
 - (4) その他重要な事
- 第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。
- (1) 総会に附議する原案
 - (2) この会の運営に関する諸事項
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 15 条 事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第 16 条 会議の議決は会員の参会者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会計

- 第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
- (1) 会員は入会金と終身会費として、入会時10,000円を納入しなければならない。
 - (2) 学生会員は在学期間の会費として3,000円を納入しなければならない。
- なお、学生会員の会計は本会計より独立させる

第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

第七章 委任事項

第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付 則

終身会費については、昭和58年度から施行する。

編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

今回は卒業して現在に至るまでの自分を振り返って、今思い、今考える事をテーマに原稿をつりました。

会員からの寄稿が、一つの大きな情報です。近況、作品、紀行文、意見、趣味等、何でもよろしいですから事務局までお寄せ下さい。お待ちしております。

「五三会」第18号 編集委員

- 大島 耕司(50) 株式会社エイエスシビルコンサルタント
☎082-295-1001
- 小川 雅彦(53) 広島大学施設部建築課
☎082-241-1221
- 山本 重信(62) 永大産業㈱
☎082-278-1331



広島工業大学建築学科同窓会誌 「五三会」第18号

- 編集責任者 小川 雅彦
発行責任者 三上 明夫
企画・製作 アクト企画
発行 平成2年3月31日